

門司学園便り

— 7 (6) 年間の思い出など —

校長 坂口 秀俊



今春、第1期生が次々と校長室に来室し、「6年間お世話になりました」と、志望大学合格の喜びを笑顔で報告してくれました。東京大学・京都大学・九州大学・広島大学医学科・奈良女子大学・お茶の水女子大学などの超難関・難関大学に見事に合格したのです。平成15年に第2学区中高一貫教育校設立準備室長（校長）を拝命し、爾来7年間、様々な苦勞がありました。彼等の一言で、この7（6）年間の努力が報われた、と心より嬉しく感じました。私は高校の教員であり、今まで、「3年間お世話になりました」という言葉は何度も聞いたことはありますが、「6年間」は大変新鮮であり、本校に奉職しなければ絶対に聞くことの出来ない言葉であると、感慨深いものがあります。

中高一貫教育校という新しいタイプの学校を創るには、「ヒト・モノ・カネ」が必要です。「ヒト」はなんとか揃いましたが、「モノ・カネ」が全くないところから出発せざるを得ない状況でした。今から200年ほど前、オランダ語の辞書無しに『解体新書』の翻訳を成し遂げたことなどの苦勞話を書かれた、杉田玄白『蘭学事始』（原題「蘭東事始」）の中に、「彼ターフルアナトミ^{かの}アの書に打向^{うちむか}ヒしに、誠に艫・舵なき船の大海に出せしが如く、茫洋として寄べきかたなく、ただあきれにあきれて居たるまでなり。」という箇所があります。設立準備室長を命じられた私は、この文章と同様「茫洋として寄べきかたない」状況でしたが、多くの方々の御協力のおかげで、現在に至っています。殊に、門浪会には多額の準備金を出して頂き、まさに物心両面の御支援に対して、衷心よりお礼申し上げます。

同窓会の御援助がなければ、今の学校はなかったと思っています。

顧みれば、10年前の平成12年夏、私が門司高校の教頭をしていた時でしたが、母校が統合され閉校になるという発表が県教委からありました。当時は私自身が統合される中高一貫教育校の校長になるとは夢想だにしませんでしたが、平成15年に辞令を受け、確かな学力を持つこと、そして志が高く、大学進学成果も良い、立派な学校を創ろうという決意を新たにしました。当時NHKの人気番組「プロジェクトX」に数年後は出演する位の価値のある学校にしたいと、準備室で話していたことを思い出します。この7年間には、筆舌に尽くしがたい苦勞もありました。幸い、優秀な教員の働きとそれに応えた生徒達、そして熱心なPTA活動により、素晴らしい成果を上げる事が出来ました。中学校での弁論大会・夢を語るコンテスト・英語スピーチコンテスト・卒業論文など、他校にはない、門司学園独自の教育プログラムがその基礎にありますし、現在も継続されています。高校でも、英語スピーチコンテスト・夢を語るコンテストは行っていますが、矢張り、門司学園は英語の学力が高いことが大きな特長です。今春、東大に合格した石原大嵩君は、高3の5月に英検1級に、広島大学医学部医学科に合格した田中友理佳君は同じく準1級に合格しましたし、毎年、中学2年で英検2級（高卒程度）に2名程度は合格しています。また、先述のとおり、多くの校内発表会を開催していますので、人前で自分の意見を発表することに躊躇いを感じない生徒が育っています。このことは、国際化社

会に力強く生きていくことの出来る人材育成に繋がっていると思います。

今年の夏には、高校3年の野崎光君が、陸上競技三段跳びでインターハイに出場するなど部活動も充実しており(その他、吹奏楽部・野球部・英語〔E S S〕部なども各種大会で優秀な結果を出している)、生徒会活動と合わせて、大変落ち着いた教育環境のもと、中高とも教育活動が行われています。

本校への期待は大きいものがあり、生徒の半分は門司区出身ですが、最も遠い所は福岡市の吉塚から新幹線で通学している生徒もおり、田川市、行橋市、直方市を始め、八幡西区・東区などからも多数通学しています。確かな学力、基本的生活習慣の確立、高い志と大きな夢など、本校ならではの教育を今後とも推進して行きたいと考えています。

福岡県立
門司学園高等学校



第一回卒業証書授与式

坂口 秀俊 氏

プロフィール

昭和 26 年 2 月 門司市寺内に誕生
昭和 38 年 3 月 北九州市立萩ヶ丘小学校卒業
昭和 41 年 3 月 北九州市立戸ノ上中学校卒業
昭和 44 年 3 月 福岡県立門司高等学校卒業
昭和 49 年 3 月 九州大学文学部史学科(国史学専攻)卒業

爾来、県立若松高校、小倉高校、門司高校教諭、県教育委員会指導主事、門司高校・小倉高校教頭を経て、平成 15 年 4 月に第二学区中高一貫教育校設立準備室長(校長)を拝命。

趣味～謡 曲

- 平成 16 年 4 月 福岡県立門司学園中学校 開校
- 平成 19 年 4 月 福岡県立門司学園高等学校 開校
- 平成 23 年 3 月 現在に至る

第13期同窓会「わかめ会」 一の俣温泉 ホタル狩の思い出



安永 剛至 (北高 13期)



第13期(昭和37年卒業・67歳)の私たちは「わかめ会」という会をつくり、還暦を過ぎたころから少なくとも毎年3回程度は集いの案内があります。

ある日誰からともなく「毎回門司区内での集まりばかりでなく、たまには近場の温泉でゆっくりしたいね」との声があがり、この度平成22年6月19日(土)～20日(日)の1泊2日で山口県下関市の「一の俣温泉」に行くことになりました。

関東地区にお住まいの3名の方の参加もあり、総勢20名(女性10名、男性10名)での「わかめ会」温泉旅行となりました。

その時の楽しかった旅の思い出を振り返ります。

6月19日(土)13時30分、JR門司港駅集合からスタートとなりました。

集合きわめてよろしく、バスは出発予定時刻15分前には宿泊地に向け出発。

宿泊宿は幸いにも私たち「わかめ会」メンバー20名のみの貸切宿となり、送り迎えも宿のマイクロバスのお世話になりました。

天気にも恵まれ、バスは栈橋通から鎮西橋・老松公園を經由し関門トンネルをぬけて一路「一の俣温泉」にまっしぐら。

車中の約1時間半、ビール・ジュースを片手に私たち青春時代の大ヒット曲、舟木一夫の「高校3年生」、三田明の「美しかった十代」？、吉永小百合・橋幸夫の「いつでも夢を」等々、休みなく全員で大合唱。男性群は既に差し入れの焼酎で酩酊状態。

宿到着時にはみなさん喉がかすれ状態。

とりあえず温泉に入って旅の疲れを癒す事にしました。ぬるぬる感いっぱい泉質の湯は身体が「ジュンサイ」になったようでした。

女性群は20歳くらい若くなったつやつや肌で食膳につきます。

おいしい食事とともに学生時代の懐かしい話題に会話が途切れません。

食事もひと段落たった頃、幹事から「ホタル狩り」出発の案内がありました。

宿の近くの川を20名乗りの小舟で下る45分間の「ホタル狩り」。何千・何万匹にわたるホタルの乱舞、その幻想的な美しさに一同圧巻、感激しきりでした。

再び宿に戻り、カラオケ・ボーリングゲーム、芸達者な方の余興で日本舞踊・どじょうすくい披露等、自分の年齢と夜が更けていく時間を忘れさせる楽しい一夜でした。

私たちは、このような楽しい日々を過ごすことができる健康に感謝し、よき同窓生との交流・友情を育みながら今後とも健康でより楽しい人生を過ごしていきたいと思っています。



一の俣温泉にて

門女 32 期 米寿を祝う会 早田 綾子 (門女 32 期)

米寿を機会に久しぶりの同期会でした。

出席者 (奈良、福岡、久留米、中津、北九州より) 22 名と大盛況のうち、おしゃべりに花が咲き、大変楽しい一日を過ごす事ができました。



平成 22 年 5 月 13 日 門女 32 期 米寿を祝う会
リーガロイヤル ホテル小倉にて

※第 2 号の表紙に作品を掲載された、小島敬三郎氏が平成 22 年 10 月に御逝去されました。
門浪会会員一同、心から御冥福を御祈り申し上げます。



在りし日の小島敬三郎 氏
白野江、アトリエにて

自然も人も常に変わりゆく存在、栄枯盛衰の無常観は自然との
一体感におき換えられる。
二隻の老船が寄り添って朽ちる姿に鬱積した情念を託した。

ひとつの詩

1999 年

油彩

100 F (130 cm × 162 cm)

第 14 回日本の海洋画展
(東京芸術劇場)



事務局だより

- ①門浪会事務局が川副 渡より北高 15 期 藤島智子に交代致しました。
皆様の心暖まる御協力と御支援をよろしくお願い致します。

事務局へのメールはこちらから → info@tonami.lolipop.jp

- ②この度、会報委員長の霜原俊雄委員長と 2 名の委員が勇退され、下記の新委員が就任致しました。

会報委員長	伊東 久司	北高 18 期
会報委員	渡辺 勝治	北高 15 期
会報委員	清水 徹	北高 15 期
会報委員	宮崎 彰	北高 15 期
担当副会長	好川 慶治	北高 15 期

前会報委員会の皆様方には、素晴らしい企画力と掲載内容で、創刊号から 4 号の発行まで大変ご尽力を頂き、心からお礼申し上げます。又、新会報委員も全力で会報作成にあたる所存です。

付きましては、来年の 5 号の発行に向けまして、皆様方の原稿及び広告を募集致します。同期会や門女・北高卒業生の近況、活躍状況等を写真と合わせて 12 月末日まで、門浪会事務局までご連絡ください。

事務局へのメールはこちらから → info@tonami.lolipop.jp

皆様方のご協力を宜しくお願い申し上げます。

- ③門浪会福岡支部が本部と統合となりました。

福岡支部窓口は、北高 14 期 畑中鶴雄様をお願いしております。

本部との引継ぎは終わりましたが、畑中様と連携を取りながら続けて参ります。

福岡支部の皆様のお協力と御支援をよろしくお願い致します。

- ④平成 23 年は、門浪会の総会及び懇親会が開催されます。当番期は『0』の付く期です。すでに準備委員会を発足し進めています。

日 時：平成 **23** 年 **9** 月 **18** 日（日）AM11:00～PM15:00

場 所：リーガロイヤルホテル小倉

会 費：**6,000 円**

但し、卒業 10 年未満(平成 13 年卒業 52 期生以降)の会費は 3,000 円とします。

同窓生をお誘いの上、御参加のほどお願い致します。

平成 23 年 3 月 13 日

会 長 岩田 勝彌
事務局 藤島 智子

会報委員会と門女北高記念室の清掃

8月10日、門女北高記念室において今期初の会報委員会が開催されました。

開催に先立ち10時30分から同記念室の清掃を行ないました。梅雨を過ごした記念室は埃と黴でかなり汚れていたが皆さんの協力で無事終わりました。会報委員会が控えているため軽めの清掃でしたが、次回は窓の掃除などしようと思います。当番期の皆さん宜しくお願い致します。

11時から会報委員会が新任の会報委員3名（当日1名欠席）を交えて開催されました。4回目を迎える会報の中身の問題や予算、発行部数等いろいろと議論をしました。

(1) 最も大きな問題として会報と年会費徴収の問題は別々に考えるべきだとの意見に従い、第4号の会報からは振込用紙や年会費納入の要望書等は引き続き同封するが、会報とは全く別の活動で各期幹事の皆さんにもご協力いただき会員の増強を心掛け門浪会の輪を少しでも広げ年会費納入の増額を図る努力をする事を決議しました。此の活動に関して、会報の動きと会員増強の活動は目的が同じである為、活動が重複し混乱を起こさない様な心配りや言葉の配慮が必要である。

(2) 広告の掲載を決議しました。一口コメント・メッセージ・同期のお知らせ等に御利用下さい。

A4のページを10等分にし、料金は一区画5,000円で2ページ分を使う予定です。皆さんの御協力宜しくお願い申し上げます。

(3) ホームページにて会報を全ページ紹介する。出来れば創刊号から。

(4) 第4号の発行部数は2,000部とする。

出席者 岩田会長 好川・木川・安立・古井各副会長
オブザーバー 喜多村ホームページ担当
霜原会報委員長 小川・山口会報委員
伊東・渡辺新任会報委員



過ぎ去りしとき—

私のベトナム、アフリカ紀行

梅津 禎三（北高7期）



人間誰も人生の中で大きな転機があるとするれば、私の場合は出張先にかかってきた一本の電話でした。「サイゴン行きが決まったから、東京のベトナム大使館へ手続きに行くように」。

大学を卒業後、新聞社の写真部に入り小倉、鹿児島、福岡と転勤族へ。ベトナム行きが知らされた時の勤務地は博多でした。

「どうして私が行くことになったのでしょうか」との問いに、上司の返答は「お前は死なないから」の一言です。

「旅の始まり」

1968年10月、赴任したサイゴン（現在のホーチミン）は、38度を超す猛暑。町のムードは戦時下とは思えないほどゆったりとした情景です。しかし、住むことになったアパートの窓には、毎晩のようにゲリラから打ち込まれるロケット砲撃に備えて、土嚢が積み重ねられており、見えない恐怖にさらされることになりました。

当時、南ベトナムには約60万の米兵が駐留しており、前線に行くためには、彼らと同じ軍装が求められていました。着任早々、一式揃えにブラックマーケット（闇市）へ。市場には武



首都サイゴンの警備をする若い女性の民兵

器以外の戦場の必需品、軍服、軍靴、ヘルメット、軍用食の缶詰までの品揃いには驚かされました。

初めて米軍に従軍して戦場の村へ。最前線には多くの人が生活していますが、戦闘が始まると、打ち込まれる砲撃から逃げ惑う住民たちは悲惨です。逃げ遅れた子どもを両脇に抱えて走ることもたびたびでした。戦場でやりきれないのは、夜間の戦闘で死んだ解放戦線の若い兵士たちです。ベトナムの赤土は彼らの血で染まったのではないかと思われるほどです。一瞬、自分が映画の中にいるような錯覚をおぼえましたが、「自分の子ども達のこんな姿は見たくない」。そんな思いを強くしました。

戦場の移動は米軍ヘリコプターに便乗していましたが、地上からの狙い撃ちで墜落。「俺には弾は当たらない」と自負していたものの、一度ならず肝を潰したこともありました。

1973年、パリ平和協定でやっと戦争が終わるという期待でしたが、協定調印の前日まで激しい戦闘が続き、平和を目前にした時ほど「もうこの機に死にたくない」という恐怖を感じました。そして、1975年、北ベトナム軍の南下で戦闘再開です。急遽、3度目のベトナム行きです。あっけない幕引きでしたが、同年4月、南ベトナムという国家の崩壊を見守り、2年あまりのベトナム取材に終止符を打ちました。

「そしてアフリカへ」

ベトナム後、アフリカ行きを命じられて、アンゴラ、モザンビークなど6カ国へ。ヨーロッパの植民地から独立した国々でしたが、宗主国が線引きして決めた国の内部には、多民族が同居し、独立と同時に始まったのは種族闘争です。宗教問題も絡んでどちらが敵味方が分からないほどの混乱です。食料も乏しく、海辺で魚釣り

の餌にしている赤貝をホテルの洗面所で料理して食べて空腹を凌いだこともあります。

また、地球上最後の天然痘撲滅を図っていたWHO（世界保健機構）の医師に同行してエチオピアに入りました。奥地の山岳地帯の住民は、



前線取材で米軍に従軍
地雷原をさけて田んぼの中を歩く

キリスト教の一派コプト教徒で、医師を助けて種痘をするエチオピア人はイスラム教徒です。種痘によって改宗されるのではないかと疑う住民から、小銃で狙い撃ちされ、逃げ出しました。こんなところまで宗教闘争が及んでいるのかと身をもって体験させられる始末。

もうその時から半世紀を超える歳月が流れました。数知れぬ人々の運命を左右したベトナム戦争やその後、アフリカ取材など歴史的な瞬間に立会いましたが、いま思うと「見果てぬ夢」の中の出来事のように思うことがあります。

定年後、いま母校の大学で報道写真をテーマに講座をしています。自分が遣り残したことを引き継いでもらいたい気持ちです。茶髪の男子学生や長い足丸出しの女子学生たちに、私の実体験を通して「写真で何を伝えるのか」を語り続けています。

梅津 禎三

● 略 歴

- 1937 門司・谷町で誕生。門司小学校、港中学、門司北高を経て。
- 1962 日本大学芸術学部写真学科卒業。同年4月、朝日新聞社写真部入社。
- 1968～1969 ベトナム特派員・サイゴン支局駐在。
- 1972 / 1975 ベトナム特派。75年4月、南ベトナム首都サイゴン陥落。
- 1976 アフリカ特派。
- 1978 ヨーロッパ特派。
- 1988 朝日新聞東京本社写真部長。
- 1989 朝日新聞東京本社文化企画局企画委員。
- 1994 世界報道写真財団（本部：オランダ・アムステルダム）国際審議会委員～。
- 1997 日本大学芸術学部写真学科講師～。社団法人日本写真協会理事。
- 2000 東京都写真美術館諮問会議委員。
- 2002 写真家セバスチャン・サルガド「Amazonas Images-Japan」事務所日本代表～。
- 2007 全日本写真連盟総本部理事～。

● 主な受賞歴

- 1973 東京写真記者協会賞「ベトナム報道＝帰ってきた兵士」でニュース部門賞受賞。
- 1978 東京写真記者協会賞「成田空港管制塔占拠」でニュース部門賞受賞。
- 1996 社団法人「日本写真家協会賞」受賞。
- 2009 社団法人「日本写真協会：国際賞」受賞。

● オーガナイズした主な写真展

- | | |
|--|---|
| 1991 マグナム40年「In Our Time」展。
ゴルバチョフ大統領訪日記念・郷愁のロシア「ミーシャたちの素顔」展。 | 2000 ヤン・アルチュール・ベルトラン「空から見た地球」展。 |
| 1992 世界報道写真展「回顧展」、「年次展～」。
ロバート・メープルソープ展。 | 2001 マグナムの写真家ラグ・ライ「India」展。 |
| 1993 エド・ファン・デル・エルスケン「Once upon a time」展を開催。 | 2002 セバスチャン・サルガド「Exodus・国境を越えて」展。 |
| 1994 セバスチャン・サルガド「Workers」展。18～19世紀のモード「Vanities」展。 | 2003 セバスチャン・サルガド回想展「Essays」。 |
| 1995 ジャック・アンリ・ラルティエグ「ベルエポックの休日」展。 | 2004 同「Essays」展を韓国・ソウルなど主要都市で巡回展を開催。 |
| 1996 ピーター・リンドバーグ「Super Model」展。 | 2005 ベトナム戦争終結30年「発掘された不滅の記録」展。 |
| 1997 ロバート・キャパ「Capa's Life」。 | 2006 世界報道写真50周年記念「フォト・ジャーナリズム」展 |
| 1998 ポンピドー・コレクション：ピカソと写真「絵画と写真」展。
「星野道夫の世界」展。 | 2008 韓国・大邱フォト・ビエンナーレで日韓交流写真展「Now in Japan and Korea」。 |
| 1999 写真が語る20世紀「目撃者」展。 | 2009 セバスチャン・サルガド「Africa」展。 |
| | 2010 同「Africa」展を韓国・ソウルで開催。 |
| | 2010 韓国・大邱フォト・ビエンナーレで日韓交流写真展「Now in Korea and Japan」。 |

朝鮮戦争で 活況を呈した門司港

種本由美恵 (旧姓 末永)
(門女 36 期)



「変わったなー」10年前、門司に帰省した時、レトロの街と化した船溜り、それに向かって綺麗に並んだベンチ、昔はこのあたりは卸売り市場だったのにーと思わず叫

びました。

これから 60 年前の事を書こうと思います。

私が 22 才の時、この通りを書類を持ってトコトコと門司税関の米軍指令部へ通ったものです。

1950 年 6 月に勃発した朝鮮戦争の時、私は門司港運株式会社の英文タイピストとして働いていました。アンダーウッドという大型のタイプライターを使い、複写紙を挟み 5 枚から 6 枚のインボイス (案内状) を打っていました。

当時、北朝鮮は金日成指導のもとピョンヤンから南下しソウルを落とし釜山に迫って来ました。一方、それに対抗してアメリカ軍および、韓国軍と共に国連に加盟する 15 ヶ国の軍隊が参戦しました。

戦争が熾烈化した 1951 年、会社は多忙を極めます。荷役の仕事はすべて本船の出航に合わせて決まります。早朝だったり、深夜だったり、その都度港湾労働者が集められます。

「オーイ、艇が出るぞー」

今日はセメントの荷役、明日もセメント、積み終わると韓国へ向かって出港します。戦場に滑走路を作る為です。

エアロプレン (飛行機)、エクスプロシブ (爆発物)、戦争に必要な物資が連日韓国へ運ばれました。荷役が終了し本船が出港する前に船長のサインを貰わなければなりません。サインを貰った書類を通訳から受け取り、積荷の数量、労働者数等をタイプした書類 (インボイス) を

米軍指令部用 2 通、銀行用 2 通、社内用 2 通合計 6 通を複写し社長のサインを貰い通訳に渡し、門司税関内にある米軍指令部のポートコマンドーのサインを貰って一つの仕事が終了します。この書類の中のバンクユーズを会計の人が銀行に持参して荷役料を受け取ります。

私は自転車に乗れません。後になって 5 人が 6 人の通訳が税関内のピアオフィスに待機していましたので書類のサインはお任せして、私のトコトコ歩きは終わりました。

三年有余の勤務中、忘れる事の出来ない思い出があります。

或る日の昼休み、打ち終えたインボイスをホッチキスで止めている時、港湾労働者が一人階段を駆け足で上がって来て、タイプライターの横に立ちつくしました。

「あら、どうしたの？ 今日のホームオペレーションの荷役には行かなかった？」

「タイピストさん、あれだけは勘弁して下さいよ。臭くて臭くて幾ら金をくれても駄目だね。鼻が臭い^{にお}を覚えちまって美味しいもの^{くさ}が臭くって食えない。人間は口で食うんじゃない、鼻で食うということが分かったよ」。

戦争が急を告げた 1950 年 9 月に入り北朝鮮軍の攻勢が続き、ついに国連軍は朝鮮半島南端の釜山付近まで追い詰められました。

これに対し仁川上陸^{じんせん}作戦が計画され成功してソウルを奪回、北朝鮮の主都ピョンヤンをも占領し、なおも北上を続けました。

話は前に戻りますが、釜山近くの激しい戦闘の時、戦死した米兵の遺体が門司港に運ばれて来ました。一体ずつドンゴロスに包まれ、AKL の船倉に積み重ねられたその数は 20 体、多い時は 30 体ともなりました。その遺体の袋の隅を這う^{うじむし}蛆虫を刷毛で払い、綺麗にして L S T に積み替えるのが港湾労働者の作業内容です。

その後、船は小倉に運び込まれ、ここで遺体の洗浄や防腐処理などの一定の処置が施され、本国で待つ遺族の方々のもとに送還されます。

この作業をホームオペレーションと言っていました。この港湾労働者はこの作業に堪えられ

(注) 船着場と大きな船との間を行き来して荷物・人等を運ぶための小舟。

なかったのでしょうか。

こんな事もありました。インボイスを作成し、よくよく見ると荷役した遺体の数と名前の数が合いません。遺体の数が一体多いのです。大変なことになりました。

米軍指令部の人と通訳と私も税関の遺体置き場に行き、棺桶の照合をしました。

つるつる光った褐色の棺、顔の部分にはガラスがはめられ、その上に同じ色の扉が付いていました。調べた結果、サージャント（軍曹）フランクという同名（姓名は忘れました）が二体あり、ほっとしました。

さて、波おだやかな日、一隻のリバーティが門司税関に接岸されました。一万トン級の船です。広い甲板には一体、一体、星条旗に被われたピカピカの棺桶が積み上げられています。

岸壁には米軍指令部の軍人が隊列を組んで並び、横に米軍軍楽隊、その後ろには荷役責任者、通訳が並びました。大砲がとどろき米国々歌が吹奏されるなか、リバーティはゆっくり岸壁から離れて行きました。



- 左手の高い建物が税関で、その右側の岸壁には七千トン級の船が3隻接岸しています。
- 海に向かってタイピスト時代の私が立っています。（手前の2隻は多分解だと思います。）

同期会

門女39期 同期会

鈴木 澄江（門女39期）

私達、戦中派の39期生、愈傘寿を迎えました。

平成22年11月1日、日銀鳥居坂分館に集い、出席者9名にて祝杯を挙げました。

同期の長谷川さんの美しきハーモニカ伴奏で思い出の歌曲集より、「さくらさくら」他を小さく合唱、大いに懐かしみました。



前列左より～田中サエ子 鈴木 正子 長谷川貞子
鈴木 澄江 原田 悦子 土佐野幸子 淵上 和子
後列左より～中村 信子 大滝 祐子

北高2期 同期会

林 民子（北高2期）

恒例の10月1日、ホテルニュータガワでの同期会。今年は9名の出席で、思い出話に時の過ぎるのを忘れました。来年も又元気にお目にかかるのを楽しみにしております。

訃報 李中ヒロ子（旧姓高尾）さん
昨年12月逝去されました。
ご冥福をお祈り致します。



前列左より～今関 信子 平木智恵子 石田 映子 小出 睦子
川崎 和子
後列左より～林 民子 三木 恭子 村井 澄子 園山 房子

北高3期・同期会（喜寿の会） へ参加してきました。

関 迪 夫（北高3期）



平成22年10月20日（水）、100周年記念の日以来3年振りの同期会が門司クラブで開催され参加してきました。お互いの健康を確認し合い、手を取り合って喜び、現況を語り合い、美味しい食事にアルコールも入り、昔の高校時代に若返り楽しい会となりました。当日参加された方は、男性17名、女性15名と当時担任の金光政秀

先生の計33名でした。（内訳は地元北九州地域を中心に福岡・下関地域から26名、関東5名、関西2名）

また今回は皆さんの喜寿（77歳）のお祝いも兼ねての会となり一段と盛り上がりました。

二次会は吉村香子さんのお店“虹”へ会場を移し、金光先生を囲み20数名の方が参加され楽しい懇親兼カラオケの会となり、21時過ぎに別れを惜しみながら次の3年後“傘寿”のお祝いと同期会での再会を約し、お互いの健康を祈念し散会となりました。

今回、案内状は110名の方に差し上げ、欠席の方60名、返送なし13名、亡くなられた方4名（上村弓枝、川原道子、山城清子、小島敬三郎）と伺いました。

参加された方（敬称略）

女性：秋葉節子、飯野和子、伊藤富美子、大隈浩子、大嶋多美子、緒方文子、黒瀬圭子、高田 淑、坪島迪子、永富正枝、野北美恵子、橋本千鶴子、平木久美子、三根喜久子、吉村香子の15名。
男性：池田正宏、伊津見喜彦、井無田武、大城誠児、大山 晃、寒川格章、品川節夫、関 迪夫、高橋祥一、田代哲夫、徳重昌彦、内藤 信、野畑 浩、平田 博、福田英敏、村上尚生、吉澤研一、金光政秀先生の18名。

平成22年10月20日
北高三期同期会 於 門司倶楽部



平成22年10月19日
懇親ゴルフ会
於 厚狭ゴルフクラブ

文責／関 迪夫

- 門司クラブでの集合には大城誠児氏が交通事情で遅れ残念ながら入っていません。
- 同期会の前日10月19日（火）に有志による懇親ゴルフ大会を厚狭ゴルフクラブで開催し好天に恵まれ友情の絆を深める事が出来ました。
参加者は、福田、徳重、内藤、寒川、品川、大城、平田、関の8名。（敬称略）
- 末筆ながら今回の同期会（喜寿の会）開催にご尽力頂いた世話役の方々に厚く御礼申し上げます。

はじめてのクルーズ

香春 道子（北高3期）



もう5年前のことになるが、思いもよらない旅に参加することになった。

はじめてのクルーズの旅である。船の名は「サファイア・プリンセス」。

この船は長崎三菱造船所で建造されたのであるが、完成を見る前に火災にあい、船体の60パーセントを取り替える大修理の後完成したという話は御存知の方々もいらっしゃると思う。

- 総トン数 116,000トン
- 乗客客員数 2670名
- 乗組員 1200名
- 客室数 1327室

私も横浜に暮らし始めていろいろな船が入港するのを他人事のように眺めていたが、もしチャンスがあれば乗ってみたいと思うようになった。これも門司育ちの血が騒いだのかもしれない。

その矢先、夫の発案で決行することになったのが「ニュージーランド・オーストラリア16日間の船旅」である。

先ず、空路シドニー経由オークランドへ向かった。日本を出発する時は真冬の1月4日、



サファイア・プリンセス

南半球のニュージーランドは真夏の季節である。友人達から非常に暑いというアドバイスもあって、荷物が軽くなるのも嬉しくて、夏物に絞り込んで用意したものの、日本を出発する時には厚手のコートを羽織って寒さの中、意気揚々と出発した。

オークランドで一泊後、市内観光を済ませ、



フィヨルドランドクルーズ
オークランド

いよいよ乗船の手続きが始まる。何しろ各地から集合した3000人の人達の出国手続き等で乗船するまで二時間強かかり大いにくたびれてしまったが、やっと手続きも完了。はやる心を抑えての船上の人となる。しかし乗ってしまえば空の旅とは比較にならない程楽ちんで、老人の旅としては結構なものだと納得した。次の日は終日クルージング。寄港地もないので船内を見て回る。多種多様な国々の方達ののびのびとしたお国柄が感じられ、言葉の通じない不便さは致し方ないものの、これから13日間の運命共同体、お互いに楽しく過ごしたいものと思った。お食事もステーキレストラン、イタリアンレストラン等々いろいろあって、バイキング様式のレストランには日本人客の好みも考えてか、にぎりずしもあり、さすがに3000人の胃袋を満足させるための方策は充分だなど納得しきり。我等日本人グループは50人であったが、それなりに満足されたのではないかと思った。

さて寄港しての観光もそれぞれ心に残るものであったが、この旅の一番の興味は「フィヨルドランドクルーズ」だった。幸い素晴らしいお

天気恵まれて、氷河が削った山々の間を滑るようにして進んで行く。兩岸の空に向かってそそり立つ山々の頂きから白い雲が、まるで這うように流れ下りくる様、中でも圧巻は海から直接そそり立つ 1692 メートルのマイターピークであった。兩岸の木々の深い緑とするどく削られた山の頂きに空の青さがとても素晴らしく、旅の目的が叶えられて最高であった。

旅もいよいよ終わりに近づき、盛り沢山のスケジュールも何とか元気でこなすことが出来、荒れる海で有名なタスマン海も無事乗り切って、オーストラリア最南端の小さな島タスマニア・ホバート入港。翌日メルボルンからシドニーに入港。下船後、成田へ向かって空路帰国の途に着いた。

夏のニュージーランドであったが、丁度冷夏



フィヨルドランドクルーズ
オークランド

にぶつかりコートを着込んでベッドに入ったり、慌てて厚手のカーディガンを買ったりしたことを今も懐かしく思い出す。初めての船旅で戸惑うこともあったが、良い仲間恵まれて思い出深い 16 日間の旅だった。

平成 22 年度 関東支部総会を終えて

石原 寛樹 (北高 14 期)



22 年ぶりに総会幹事の当番が廻ってきました。6 月 26 日に日本橋かきから蛸殻町のロイヤルパークホテルにて開催。大役を何とか無事に務めホッとしております。

10 年一昔と言いますが、何しろ二昔前。何から始めればと全くの白紙状態。取り敢えず会場を押さえなければと「駅に近いこと」「値段が安い」「料理がうまい」「100 人前後の会場」等々勝手に条件設定の上、場所探しに取り掛かりました。なかなかこれはという物件が見つからず、これは条件を変えなければと難儀中のところ、一緒に準備をした榎田君の知人のご紹介で同会場を推薦され、下見をしました所、場所は地下鉄水天宮駅よりホテル直行と分かり易く、料理・会場も申し分なく、これは絶対 OK!

駅名にもなっております水天宮は子宝・安産

祈願で全国的にも有名ですが、その起源をたどってみますと、源平壇ノ浦合戦で入水した安徳天皇他平家一族の霊を慰めたのが始まりとされ、その後久留米有馬藩の守護神として江戸に分社されたものです。我が故郷であります関門海峡にまつわる故事、これも何かの縁とばかり早速交渉に入りましたが、やはり良いところはそれなりの価格。一寸以上の見積でこれは断念しなければと思いつつ、紹介先に「我が同窓会は予算が厳しいので何とかならないか？」と虫の良いお願いをした所、直接先方の総支配人と折衝頂き、何とか確保出来ました。折しも丁度、



坂田関東支部長による挨拶

TBSで放送中の新参者（東野圭吾原作、阿部寛主演）の舞台である人形町と隣接しており、ロケーションはばっちりです。さあ、あとは開催日程に合わせて案内状の作成と発送です。

今回は運営委員の方々の応援で、門浪会会報と一緒に案内状と返信はがきを同封させていただきました。現在関東支部の会員数は約760名余。会報のみならず、総会の案内まで同封となると意外に重労働です。

改めて委員の皆さまに御礼申し上げます。

さて、総会当日は生憎と予報では曇り後雨との事でしたが何とか曇。出席者は門女10名、北高71名、来賓として門浪会本部より古井副会長にご出席戴き、82名の参加となりました。又我が同期は九州及び関西より6名の応援もあり13名の参加と何とか面目を保つことが出来ました。年々門女卒業生の出席が少なくなっていくのはさびしい限りですが、今年も前支部長で当会の名誉会員であります門女34期の吉村さんが元気なお姿で出席されました。坂田関東支部長の開会の挨拶にて総会がスタートし、来賓、吉村さんのご挨拶と続き懇親会に移りました。会も佳境に入り、皆さん同期、先輩、後輩等々、懐かしい顔を見つけては談笑、一献と大いに盛り上がりました。又北高最後の卒業生で現役大学生であります第60期の入江君より、中国で開催されたレスリングアジア大会での5位入賞凱旋報告並びに中国の近況紹介を致しましたが、本日の最年少卒業生とあって記念写真

やサイン等々、アイドル並の人気で賑やかな会となりました。

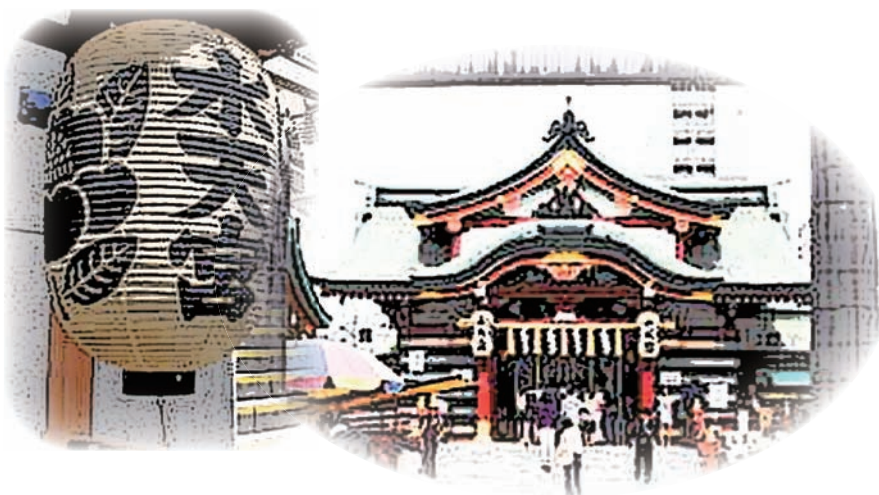
懇親会も終盤に入り、門浪会の歌姫23期奥野さんの指揮の下で全員での門女及び北高の校歌斉唱並びに次回幹事15期生の紹介、最後に高橋支部副会長の閉会の辞で無事閉会となりました。今回は同ホテル内に2次会の会場を設けておりましたが、30数名の方が利用され盛り上がったようです。

我々14期の幹事一同は同期会を鬼怒川温泉にて計画。生憎と総会には出席できなかった者を含めて22名が集合。宴会、カラオケと大騒ぎ。翌日は日光東照宮、華厳の滝見学と修学旅行の再現で学生時代に戻りました。

最後に総会開催にご助勢頂きました役員、諸先輩並びに同期の皆さまに御礼申し上げます。又来期15期のご活躍とご盛会をお祈り申し上げます。



総会の様子～ロイヤルパークホテルにて



関西支部

第一回 門浪会関西同好会に寄せて

渡辺 允子 (北高9期)



昨年の門浪会関西支部の解散から早1年。
平成22年11月19日(金)、9回生が幹事となり、京都御所の一般公開に合わせて計画したこともあって、39名の方々の参加をいただき、第一回の門浪会関西同好会を京都タワーホテルで開催しました。

門女の6名の元気なお姿に勇気づけられ、九州や四国からの参加をいただいた10回生、他の学校卒業生もいらした11回生等、大変楽しい会が持たれました。会場には門司の高松さん(北高9回生)からメールで送信していただいた「関門の夕景」の写真も飾られました。

司会の白石さんも当日のポカポカ陽気の上、暖房の良く効いた会場で「お暑うございます」と季節に合わない第一声で笑いの中に和やかな会が始まりました。

吉本会長の「これからも皆さん相互の親睦を図り同好会を続けて行きたいと思います」との挨拶のあとは、京料理での懇親会が和やかに始まり、その中心の話題は「健康」や「老後の趣

味」「加齢に伴う傷害の克服」など「いかにしてこれからの人生を楽しく、健康に過ごせるかがポイントね」などと、皆それぞれ、日頃の思い、身体も脳も下り坂にかかり、ブレーキをしっかりと踏んで、私たちの両親ができなかった素敵な余生を過ごしたい。など話が盛り上がり、あっという間に2時間が過ぎ、北高応援歌を合唱してお開きに。

その後、紅葉の美しい京都御所へそれぞれ移動。京都御所の桧皮葺きの寝殿造り、紫宸殿の「高御座」、手入れの行き届いたお庭等を拝観いたしました。

今年の夏、京都タワーに登った時、東山が紅葉？しててびっくりしましたが、それは紅葉でなく、「ナラ枯れ」といわれる榎の木が「カシノナガキクイムシ」というカブト虫が木の幹に穴を開けて、幼虫のエサとして持ち込むカビが原因で水を汲み上げる導管を詰まらせると聞きました。

地球の温暖化の影響でしょうか？ この美し



一般公開された京都御所の
回遊式庭園「御池庭」



奥に「紫宸殿」を望む
「承明門」前にて

い自然が破壊されることにおののき、自然を守る為に、私たちは一体何をすれば良いのだろう

と考えさせられた1日でした。



平成 22 年 11 月 19 日 「門浪会」 関西同好会
京都タワーホテルにて

門司港の老舗（最終回）

岩田商店の建物とそこに住んだ思い出

岩田 昶（北高9期）



建物の概要と特徴

この建物には、雨戸の繰り出し口が5箇所もあります。1階に3箇所、2階に2箇所。朝の繰り入れ、夕方の繰り出し、この開け閉めが、

かなり力を要します。繰り出すときは、早いのですが、繰り入れるときは、1人では時間がかかります。

家族14人が寝起きしているときは、どの雨戸も毎日、開け閉めしていました。ことに、表の店舗の雨戸は厚くて重く、おまけに階段の踊り場にある戸袋は変な高さで作っていました。不自然な姿勢で、両手を伸ばして雨戸を抱えなければならず、腰を痛めかねないものでした。

台所、風呂場、便所は雨戸で遮断された外側にあり、いったん締め切ってしまうと、潜り戸

を開けて通らなければなりません。幼いころは夜に便所に行くのが怖いくらいでした。妹達も、夜は連れ立って一緒に便所に行っていたのを覚えています。

昭和33年に関門国道トンネルが開通するまでは、車の通りも少なく、夜はとても静かでした。夜中に家がミシミシと軋んで音をたてるのです。それがいかにも、人が廊下を歩いているように聞こえて、不気味でした。

玄関を入った右側には、茶の間から見えるよう前庭しつらを設え、風趣に富んだ美しいものでした。家族の集合写真は、ここで撮っていました。

昭和32年だったと思います、関門国道トンネルの開通を控え、道路の角地を占める建物の基準が変わったのでしょうか、市からの勧告を受け、見通しを良くするために削ってしまいました。

そのため、その庭は日当りの悪い、貧相なも

のになってしまいました。

別に、中庭があり、そこには、商売の神様・お稲荷さんを祀っていました。その横には、大きな鉢を据え、その中に金魚を飼っていました。

中庭を隔てて、2階建ての蔵があり、その地下には、戦時中は自家用の防空壕がありました。この防空壕にも思い出があります。あのかび臭いにおいを忘れることはできません。その中で待避しているときに、祖父が百足に噛まれて悲鳴をあげたこと、家族全員が、防空頭巾を被って身を寄せ合い、爆弾の破裂音を震えながら聞いて、ひたすら敵機が遠ざかるのを願ったこと、長年飼っていた猫が、空襲警報が鳴れば、家人の誰より早くそこに避難していたことなどです。

米軍の空襲は夜に限られていたので、防空壕で一夜明かして、朝の太陽を見たときは、あの恐ろしい空襲は、夢だったのかなと思いました。

廊下がやたら多くてしかも長いことも特徴の

一つにあげられるでしょう。道路の舗装がよくない時代でしたから、風がちょっとでもあると、黒い廊下が白い埃で余計に汚れているように見え、拭き掃除は子供達の仕事でした。きょうだいで持ち場を分担していました。また、玄関があるのに普段は閉じきったままで、これを開けたのは葬式と結婚式のときだけでした。玄関の上がり間は、お手伝いさんの部屋になっていました。

私達は、学校に行くときは、裏門から出て、帰ってきたときは、店から入りました。

2階は、襖を取り外せば、大宴会もできるようになっています。

床の間のかまち こくたん櫃は黒檀の最高級の木材で作られており、普段は白木の蓋を被せて目立たないようにしていました。

この2階を開け広げて使ったのは、店の周年記念、結婚式、葬式のときぐらいでした。

終わり

2号から3回に亘り連載致しました、「岩田商店の建物とそこに住んだ思い出」を今回で終わらせていただきます。

この小文は、平成14年に書いたもので、今読み返すと、自分勝手な思いこみを、よくもまあ臆面もなく、だらだらと書きつらねたものだと、はずかしい気持ちでいっぱいです。

記載内容も現状とはだいぶ変わっています。

旧岩田商店の建物は、保存運動が高まったことで、北九州市指定有形文化財となり、レトロマップにも掲載されています。

今は、所有者で声楽家である従弟が、奥の倉庫をイベントホールに改造し、毎週土曜日「酒蔵コンサート」を催しています。

あの建物を、家事や空襲からまもった赤レンガの防火壁は、西側部分が倒壊し、今も原形に復していません。角地であるため、東と南側の道路には、重量運搬車が疾駆し、その震動で建物のいたみも進んでいます。

門司港の発展と衰退の歩みを黙視してきたあの建物の寿命が尽きるのも遠くありません。

御拝読下さった皆さんには厚く御礼申し上げます。

門浪会 福岡支部の解散報告

福岡支部長 小林 孝 洋（北高9期）



母校の門司北高等学校が閉校して、はや2年が過ぎました。

時代の流れは、同窓会の執行体制のあり方も変革して行くことは自然の流れであろうと考えます。門浪会会報第3号の新会長就任の挨拶の中で、岩田勝彌氏は次のように書かれています。

「22年度より門浪会は、支援する母校もなくなり入会金もなくなります。今後は積み立てられた資金の取り崩しと会費の納入金の範囲で運営することになります。そのためには本部経費の見直しが必要です。」

また、事務局だよりでは、

- ①門浪会会費は各支部を含めて本部が一括して徴収する。
- ②会費は2,000円とし支部活動費を分配する。
- ③上記案に関東、福岡支部のご理解を戴きたい。とのことでありました。

福岡支部執行部では協議会の結果、下記のアンケート調査を実施しました。

- ①福岡支部は本部と同一県内にあること
- ②会費が1,000円から2,000円に値上げになること
- ③本部の資金不足

などを鑑み、この際、福岡支部は本部に統合する方向で支部会員のご意見を伺いました。

アンケートの結果は、下記の通りです。

高女卒 33人（賛成 33人、反対0人）

高校卒 80人（賛成 77人、反対3人）

合計 113人（賛成 110人、反対3人）

9月9日、門浪会会長／岩田勝彌氏、元会長／霜原俊雄氏が来福され、福岡支部長／小林孝洋、事務局／神川敬三（北高11期）、畑中鶴雄（北高14期）と協議を行った結果、福岡支部は本部に統合することに決定し、事務引継ぎも終了しました。

福岡支部会員の方々には、長きにわたって物心両面で支えて頂きましたことを心より感謝申し上げます。

『十期会』 関東での 古希の祝い会に参加して

吉村大三郎（北高 10 期）



平成 22 年に門司北高校昭和 34 年卒業第 10 期生の我々は古希の寿を迎えた。

「古希」の寿とは中国の詩人杜甫の「曲江詩」の「人生七十古来希」から 70 歳を古希の歳として祝う

とあるが、人間の寿命が延びた現代ではまだまだ 70 歳は老人扱いにはなっていないようである。現に私が居住する太宰府市の老人会は 75 歳からの加入である。

以前は人数が少なく 65 歳からであったが、年々年寄りの割合が増え予算的にも苦しいとのことで、規約が改正され加入年齢が加算され現行の年齢となった。老人福祉に逆行の感もあるが、未だ未だ年寄りの感覚はない（実際はかなり身体にガタが来だして、食後に数種類の薬剤を服用しているのが現状である）。

しかし、一応祝の寿であるから十期会として何かやったらどうかと門司在住の役員に声を掛けたが、連中の腰が重く計画がなされなかった。そうこうしているうちに関東の小澤、山内両氏から関東地域で「古希の集い」をやるので九州の連中も出てきてはどうかとのお願いがあった。

それでは折角の誘いなので出かけるかと言うことで連絡すると綿密な計画書を送ってきて出来るだけ大勢誘ってこいとのこと。

あっちこっち連絡を取って勧誘したが 70 にして暇の者は中々出てこず、結局関東に押しかけたのは、北九州からは佐伯忠夫氏、と後は女性軍の穴吹（足田）瑞代、内山昌子、河村（福田）しをり、時枝（山口）清美、福井（伊与田）節子、松田（藤沢）史代の 7 人と都城から栗山（西藤）誠と福岡から小生の総勢九人の美男美女が 9 月 15 日に上京した。

9 月 15 日（水） 羽田空港で合流し、リムジンバスで第 1 日目の宿舎の「サンルートプラザ」にチェックイン。ホテルでは小澤、山内、堤（岸

本）、渡辺（江口）らが受付・集金・資料配付をやってくれた。

本日の予定は宴会までディズニーランドとディズニーシーに分かれて見学。九州勢はほぼ全員関東の黒瀬（小松）京子さんの案内でディズニーランドの方へ。

入場したら直ぐにハロウィンパレードが行進しており、暑い中ボケーッと見学していたが、とにかく何かに乗ろうと最初に「蒸気船マークトゥウェイン号」次が「ウエスタンリバー鉄道」でやっとディズニーランドに来た気分。

昼食をとる段になって又これが一仕事。とにかく並ぶ並ぶでやっと昼食にありつけた。

昼食後評判のお化け屋敷に行こうと意見が一致したが、これが又 1 時間半待ちとのこと、あきらめて目指すは「ビッグサンダーマウンテン」この施設は某生命会社が後援しているのを同僚の某女がいち早くキャッチして手を回し、大勢並んでいるのを尻目に裏口から V I P 専用ゲートをくぐって、V I P 待合室で飲みもののサービスを受け、早々と先頭車両へ案内され、スリルを満喫した。このジェットコースターは非常に痛快であったが、中には日頃のおしゃべりを忘れて乗っている間中一言も発せず、うつむいたままの女性や、降りた途端吐きそうになり、後の行程をリタイアした者も出た。

後は金の掛からない 2 階建てバスや、カントリーベアシアター等を見て回ったが、時間が経ちすぎて記憶が薄れているのでディズニーランドはこれくらいで。

小生 70 歳にしてディズニーランドは初体験であった。で印象はとにかく「でかい、広い」、「金のかけ方が違う」さすが東京？ディズニーランドは千葉県か？

夜の懇親会はプラザホテルで関東勢 16 名と我々 9 名で開催。幹事代表として山内氏が歓迎挨拶。乾杯が一番遠い宮崎から参加の栗山が発声し開宴した。

何時も感じるのだが同窓会は一瞬にしてその時代に浸ることが出来て、様々な記憶がよみがえる。私は小・中・高・大学・更に職場の O B 会等全て案内があればほとんど顔を出すようにしているが、これらの催しに全く参加しない人もいるが、どうしてもその気持ちが理解できない。

9月16日(木)は、東京下町巡りでホテルを出発し、まずは「亀戸天神」で総勢19名が古希のお祓いを受けた。お祓い料とは別に大枚のお賽銭を奉じ、家内安全と後何年も丈夫で惚けもせず、ゴルフができますようにと願った。

次が現在建設中の世界最高(634m ちなみにこの高さはむさし=武蔵とのこと)となる東京スカイツリーを眺め一路浅草寺へ、浅草は雷門、仲見世を散策し昼食は「浅草むぎとろ別館」でビールを飲みすぎながらの食事を。浅草を出ておばあちゃんの何とかで有名になった巣鴨の「とげぬき地蔵」を参拝。小さなお地蔵様に花祭りのお釈迦様に甘茶を懸けるつもりでお水を懸けたら、「水を懸けたらいかん、ご神体を拭うのじゃ」と一喝、ごめんなさい。

参拝して家内安全と健康第一をお願いし、「浅草演芸ホール」落語、都都逸、講談を少しずつ楽しく体験し、名残惜しかったが夕食会場へ。

夕食は浅草「米久本店」という牛なべの老舗。九州のすき焼きとは違っていたが大変旨かった。欲を言えばもう少し旨い牛肉を食いたかったが予算の都合か？ 二次会は小沢、山内氏が常連のスナックへ。

宿舎はホテル「ドリーイン八丁堀」東京駅のすぐ近くで風呂が個室の風呂でなく大浴場？(一度に10人ぐらい)の温泉はよかった。

9月17日(金)は、東京3日目最終日。ハトバスで下町ツアー。九州勢7人に応援の山内氏の8人で大型バスが貸し切りとなった。

早速東京タワーへ。スカイツリーのおかげで逆に人気が出たようで、平日も大賑わい。

タワー展望台からの東京見物は晴れて視界良好。その後皇居二重橋へ。小生皇居は初参上、やっぱり日本人だなーの感覚。そうこうしている内に昼はサッポロビール系統の「ライオン」で昼食。8人がアルコールのせいか大きな声で大笑い。多分他のお客さんのひんしゅくを買っただろうか？。食後は汐留からお台場へ行き、「フジテレビのスタジオ見学」。松田のキャスター体験はなかなか様になったキャスターぶりを発揮し観客から拍手喝采。再び都内に戻って東京で今一番の人気スポット「六本木ヒルズ」を見学。歩き疲れを安いコーヒーショップでしばしの休憩後羽田空港へ。空港にはわざわざ小沢、上野氏が見送りに、最後の最後までお世話になりました。

九州勢感謝の気持ちと楽しい思い出を土産にそれぞれ帰路に着いた。

最後にこの会を企画立案され実行された小澤、山内両氏をはじめ、関東の皆さんに感謝の気持ちで一杯です。有難うございました。



平成22年9月15～17日
『十期会』の古希の祝い会にて



●一口コメント ●メッセージ ●同期のお知らせ等…に御利用下さい。
(一枠 5,000 円です。)

仕出し料理専門 **きたむら**

喜多村 敏治 (北高 15 期)

〒758-0025 山口県萩市土原 504
電話 (0838)25-2070
<http://www.hagi-kitamura.com/>



〒801-0808 北九州市門司区葛葉 1 丁目 11-7

ヤマニ醤油株式会社

代表者 岩田 正彦
電話 (093)321-0501 番(代) FAX (093)321-0504 番

その一瞬は
写真の中に
生きている

株式会社 **西日本写真社**

代表取締役 清水 徹 (北高 15 期)

〒802-0051 北九州市小倉北区黒原 2 丁目 29-23
TEL (093) 931-0102 FAX (093) 931-0622

各種スポーツ用品のご相談・ご用命は
(株)門司スポーツ商会

代表取締役 遠藤 隆二 (北高13期)

各種スポーツ用品販売のお店… 北九州市門司区清滝4-2-17
TEL 093-331-3067
FAX 093-321-6967

各種刺繍・ユニフォームマーキングのお店… 北九州市門司区錦町1-1
ししゅう屋 TEL 093-321-0640

割烹 **まんねん通**

代表 塚本 照信 (北高 14 期)

北九州市門司区栄町 5 番 3 号
TEL 093-321-0029  0120-00-8129

ひとりの街の石屋さん

石碑・石材加工据付全般



有限会社 **小川石材**

代表者 小川 雄二 (北高 18 期)

〒801-0854 北九州市門司区旧門司 1 丁目 7-21
電話(093)321-6048 FAX (093)321-6046

雀百まで踊り忘れず 踊って楽しい笑顔の集い

「四季のグループ」

代表 米澤 英子 (門女 35 期)

北九州市門司区高砂町 12-11 TEL (093) 341-0207



地球にやさしいエコドライブ

「安全」「確実」信頼される輸送を目指します
【事業内容】・飼料バラ輸送・海上コンテナ・ダンプ・冷凍車

有限会社 **大進商運**

相談役 霜原 俊雄 (北高 8 期)
代表取締役社長 霜原 達雄 (北高 16 期)

〒801-0803 北九州市門司区田野浦 1002 番地
TEL(093)331-5521 FAX(093)331-5719
E-mail:info@daishin-shoun.jp